

さまざまな事業の取り組み

民間連携

中小企業海外展開支援

→ P.82-83

→ P.84-85

日本の民間企業が持つ技術を活用したイノベーションを、多様化する途上国の課題解決に生かすため、JICAはPPPインフラやSDGsビジネス、中小企業支援等を通じて、企業との連携を強化しています。



地球規模課題に

対応する科学技術協力

→ P.86-87

日本の持つ科学技術をベースに、日本と途上国の研究機関による国際共同研究によって新たな「知」を創造し、その研究成果を実社会に還元することで、地球規模課題の解決を目指します。



市民参加協力

→ P.88-91

JICAは日本と途上国をつなぐ懸け橋として、日本の市民による国際協力活動を支援しています。NGOや地方自治体、大学や研究機関等と対話を重ねながら連携し、途上国の発展と日本の地域や関係者へのWin-Winの貢献を目指します。また、途上国の現状を伝えるための学校現場と連携した開発教育にも積極的に取り組んでいます。



ボランティア

→ P.92-93

国際協力の志を持った方々が途上国に派遣され、現地の人々と共に生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国が抱える課題の解決に貢献しています。



多様化する地球規模課題や開発途上国のニーズに応えるためには、地方自治体、企業、大学、NGOなど、革新的な技術や豊かな経験を持つパートナーとの連携が不可欠です。JICAは日本の多様なアクターの力を途上国支援に生かすために、さまざまな連携事業を行っています。また、世界の援助機関等と協調して、国際社会が取り組むべき重要な課題を議論し、事業の成果を広く発信しています。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



→ P.94-95 国際緊急援助

海外で大規模な災害が発生した際に、被災国政府等からの要請に基づき、緊急援助を実施しています。被災地では被災者の救助や診療、災害からの復旧活動を行います。また毛布やテント、浄水器などの物資も供与しています。



→ P.96-97 研究活動

JICAが援助の現場で培ってきた多くの経験に根差した研究を行い、今後の事業戦略に生かすとともに、開発援助の潮流に反映させることを目指し、国内外に積極的に発信しています。また、開発協力大綱を踏まえた「質の高い成長」に関する研究も行っていきます。



→ P.98 開発パートナーシップ

JICAは世界の援助機関と協調し、開発援助の現場で連携しています。また、国際社会が取り組むべき重要課題について、ドナー間の対話や国際会議を通じて発信を行っています。

→ P.99

SDGs達成に向けた JICAの始動

2030年に向けた世界共通の目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」。JICAはこれまでに蓄積した開発援助の経験とネットワークを活用し、ゴール達成を目指しています。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です